

---

# レギオンの将

子儀

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

レギオンの将

### 【Nコード】

N7976Z

### 【作者名】

子儀

### 【あらすじ】

嵐の夜が明けてみれば、昨日までの街並みは姿を消し、一面の森が広がっていた。家ごと異世界に流されてしまった青年は、日々を過ごすうちに自分が奇妙な力を得たことに気づく。RTSの面白さを表現できるか挑戦します。基本的に旅をしない異世界譚。

## 01話

旗中 将貴ハタナカ マサキの目覚めは最悪だった。

「……うー……」

がんと響く頭痛をこらえ、のっそりと起き上がる。

昨晩から派手に吹き荒れていた台風のせいで眠りでも浅かったのだろうか。家も妙に軋んでいたような気がする。

ちよつと睡眠時間が減るだけで体調を崩す身体が憎い。台風の間  
の鬱憤を晴らすかのように、カーテンの隙間から無駄に元気に差し  
込む日光が恨めしい。

元々あまり明るいのは苦手なのだ。締め切ったカーテンはそのま  
まに、トイレに向かった。

先祖がちよつとした地主だったということでも無駄に広い旗中家は、  
祖父母が亡くなり、後継であつた両親が仕事の都合で海外生活を余  
儀なくされ、通っている大学が近いという理由で将貴に管理を任さ  
れている。正月は親戚が集まり賑やかな自宅も、正直一人では持て  
余している。

体調が優れないときにこの長い廊下を移動しなくてはならないの  
は億劫だし、トラブルが発生したときの対応が厄介なのだ。

特に今日のように。

「ん？」

パチンパチンとトイレのスイッチを切り替えるも、一向に電気が  
点く様子がない。

思っていたよりも前日の台風はひどかったのか、停電であればは  
やく復旧してくれればいいが。

そんなことをうまく働かない頭でばんやりと考えつつ、用を足す。  
手を洗おうと蛇口をひねったとき、今度は水も流れないことに気が  
ついた。

（そんなに台風はひどかったのか……）

朝からトラブルの連続にうんざりしつつ、居間へと向かう。

（庭は大丈夫かな）

母屋は数年前に改築したから余程じゃなければ大丈夫だと思うが、明治の頃からあるという蔵は正直心配だ。以前に地震が起きたときは中の棚が一部壊れて大変な目にあつた。

とりあえず様子を見るつもりでカーテンを開け、庭の向こうに目を向けた将貴は、諸々のトラブルは、目の前にある光景の余禄であつたことを悟つた。。

庭を囲む背丈をわずかに越える、敷地を囲つた塀。

昨日までその向こうに見えていた、見慣れた街並みは姿を消し……一面の森が広がっていたのだつた。

## 02話

「……ないわー」

思わず呟きつつも、意外に自分が冷静であることを将貴は感じていた。それは一種の防衛反応なのかもしれない。だが、何が起きているのかを確かめる必要がある現状では、それがありがたかった。とりあえず外に出てみよう、と考える。

目の前にある窓からでは高い塀に遮られて、庭の一部と立ち並ぶ木々の上の方しか見えない。どの程度の異常かが、確認できないのだ。

2階に上がるのもいいかもしれないが、周囲をぐるりと見て回るためには部屋をいくつか回らなくてはならず、面倒なのでやめた。

ここからすぐに外に出ることも出来るが、塀の外に出るには結局玄関前を通るので、ひとまず玄関にまわり靴に履き替えることにした。

少し迷ったが、普段使っているスニーカーを履くことにした。塀の向こうに見えた森がもしも続いているのであれば、しまい込んでいたトレッキングシューズを引っ張り出す必要があるかもしれないだが、とりあえずは塀の向こうをぐるりと1周してみて、それから考えようと思う。

ドアノブに手をかけ、そっと押し開ける。

気圧差でもあったのか、ドアの隙間から外の空気が吹き込み……息を吸った瞬間、将貴は喉が燃え上がったように感じた。

「ぐっ……！」

熱はそのまま胸に燃え移り、肺を焼く。

血管に取り込まれ、心臓が激しく脈打つ。

忘れていた頭痛がぶり返し、思考する余地を奪う。

荒い息を継ぐことで、さらなる熱が取り込まれる悪循環に、耐え切れず膝をつく。

視界が明滅し、大きく咳き込んだあと、将貴はその意識をゆつくりと手放した。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7976z/>

---

レギオンの将

2011年12月25日17時45分発行